

浦幌町のゾーニング事業について

～自然を守りながら地域にとって望ましい再エネを考える～

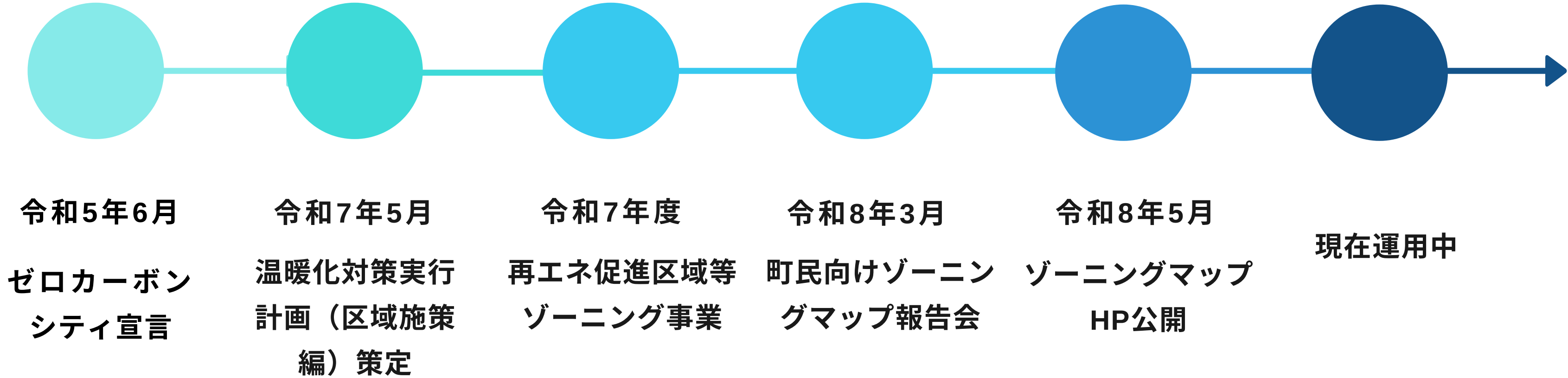
まちづくり政策課ゼロカーボン・DX推進係長 須田 考哉

浦幌町立博物館 持田 誠

目次

- 1 これまでの取り組みの流れ
- 2 浦幌町がゾーニングに取り組んだ背景
- 3 どのように作ったか？
- 4 ゾーニングマップについて
- 5 公開後の運用について
- 6 保全エリアの考え方
- 7 現状のメリットや課題

01 これまでの取り組みとゾーニングの位置づけ



目次

- 1 これまでの取り組みの流れ
- 2 浦幌町がゾーニングに取り組んだ背景
- 3 どのように作ったか？
- 4 ゾーニングマップについて
- 5 公開後の運用について
- 6 保全エリアの考え方
- 7 現状のメリットや課題

02 浦幌町がゾーニングに取り組んだ背景

浦幌町では、再エネ導入を進める一方で、

- ・ 自然環境を一元的に管理する部署がない
- ・ 太陽光発電事業の問い合わせ窓口が統一されていない
- ・ 町として、どんな場所を守り、どんな事業を進めたいのか示せていない

再エネの適地を示し、町としての判断基準と相談体制を作る必要があった

目次

- 1 これまでの取り組みの流れ
- 2 浦幌町がゾーニングに取り組んだ背景
- 3 どのように作ったか？
- 4 ゾーニングマップについて
- 5 公開後の運用について
- 6 保全エリアの考え方
- 7 現状のメリットや課題

03 どのように作ったのか

浦幌町では3つのエリアで整理しました

保全エリア：再エネ導入を抑制するエリア

調整エリア：各種制約を踏まえて再エネ導入を検討することが可能なエリア

促進エリア：特定の条件のもとで積極的に再エネ導入を検討することが可能なエリア

03 どのように作ったのか

再エネゾーニングの実施にあたり、以下の6つの区分にもとづいて要素マップを作成しました。

環境保全等法令

保安林
鳥獣保護区
埋蔵文化財包蔵地
町指定文化財
廃棄物が地下にある土地に係る指定区域

環境保全情報

絶滅危惧種
現存植生図2024
KBA（生物多様性重要地域）
IBA（重要野鳥生息地）
巨樹・巨木
河川
風力発電における鳥類センシティブティマップ

土地安定性情報

砂防指定地・砂防ダム
土砂災害警戒区域
土砂災害特別警戒区域（急傾斜地、土石流、
地滑り防止区域）
急傾斜地崩壊危険区域
洪水浸水予測図
津波浸水想定区域（3m以上）

土地利用方法情報

地域森林計画対象民有林
海岸保全区域
漁港区域
用途地域
建物
道路
鉄道
農用地区域
都市公園
公共下水道供給開始区域

生活環境情報

騒音・振動規制区域

事業性情報

太陽光発電 建物系 導入ポテンシャル
太陽光発電 土地系 導入ポテンシャル
風力発電 導入ポテンシャル
最大傾斜角度 20℃以上
最大傾斜角度 30℃以上

03 どのように作ったのか

各産業団体や専門家、関係機関等のインタビューを反映して作りました

有識者会議

専門的知見や情報の扱いに関するアドバイス
メンバー：

宇山 生朗（北海道環境財団）

丹野 るみか（ラポロアイヌネイション）

茅野 恒秀（法政大学）

持田 誠（浦幌町立博物館）

若松 伸彦（日本自然保護協会）

分山 達也（東京科学大学）

ステークホルダーインタビュー

町内産業団体、先行してゾーニングを実施した
近隣自治体、国や道の関係機関等にインタビューを実施

懸念事項、提案や可能性、注意すべき点などを
整理

町民向けセミナー・ワークショップ

脱炭素の取り組みと再エネゾーニングに関するセミナー

土地利用のあり方を考えるセミナー・ワークショップ

町内の大事な場所 参加型調査

町民がオンラインマップに町内で大事な場所とその理由を投稿する参加型調査

ゾーニングの要素マップでは捉えきれない
町民の生活や歴史にかかわる情報を収集

シナリオワークショップ

町民の多くが重視する自然環境の保全にかかわる情報のレイヤーデータの選択について、専門家の指導のもと、保全すべきエリアが確保できるのかを検証

03どのように作ったのか

エネルギーアクションを通じた町民との共創

うらほろ エネルギー アクション 2025年度 初回!

2025 7/25 金 18:30 ▶ 20:00

ーまちづくりからゼロカーボンへー

第5回 再エネってどこに? どうやって?
～再エネ推進・規制と合意形成～

- ☑ 太陽光パネルの景観・自然環境への影響は?
- ☑ 再生可能エネルギー（再エネ）って誰がどう決めるの?
- ☑ 住民の声はどう反映されるの?

講師：茅野 恒秀
法政大学 社会学部教授・信州大学 グリーン社会協創機構特任教授

法政大学と同大学院で環境社会学を学び、群馬県みなかみ町や青森県六ヶ所村などを現場に森林資源管理やエネルギー政策と地域社会の関係を研究してきた。郷土史から政策までを幅広く扱うフィールドワーカー。

内容
・イントロダクション
・学びの時間〈講演〉
・おしゃべりタイム〈感想や質問〉

会場 浦幌町中央公民館2階 第1・2研修室

参加費無料
申込不要
誰でも参加

【主催】浦幌町
【お問い合わせ】まちづくり政策課ゼロカーボン・DX推進係 Tel: 015-576-2112

うらほろ エネルギー アクション 第6回

土地とエネルギーの未来を考える

浦幌でも太陽光パネルが増える一方で、景観や自然に影響が懸念されています。

「大切な場所」を一緒に考えてみませんか?

学びの時間	60分	おしゃべりタイム	30分
調査報告会 ① 太陽光パネルはどこにある? ② まちの自然・文化的に重要な場所を知ろう		グループワーク みんなで考える「大切な場所」 ～皆さんにとっての大切な場所は?～	

2025 9/17 水 **時間** 18:00～19:30 **会場** 浦幌町中央公民館 2階第1・2研修室

▶当日はオンライン参加も可能です。zoomに関しては町の公式LINEをご覧ください。

【お問い合わせ】浦幌町まちづくり政策課ゼロカーボン・DX推進係 Tel: 015-576-2112
主催：浦幌町
協力：環境エネルギー政策研究所（ISEP）

ご参加いただいた方に
イベント限定
エコバック
プレゼント!

第7回 うらほろ エネルギーアクション × 博物館特別講座

～自然環境とエネルギーの未来を考える～

浦幌でも太陽光パネルが増える一方で、自然環境への影響が懸念されています。

本年度、町では「どこを守り、どこで再エネを進めるのか」を考えるゾーニングマップを作成しました。

今回は自然保護の専門家を招き、浦幌の自然環境とエネルギーについて考えます。

スケジュール	特別ゲスト
報告会 浦幌町再エネゾーニングマップ概要報告 (役場まちづくり政策課、浦幌町立博物館 持田氏)	 若松 伸彦 氏 日本自然保護協会 自然のちから推進部保護担当室長 横浜国立大学環境情報学部博士課程後期修了、博士(環境学)。明治大学文学部兼任講師、山梨県南アルプス市ユネスコエコパーク専門員他。専門：植生学、植生地理学
特別講演 浦幌・道東の自然保護を考える (日本自然保護協会 若松氏)	
パネルディスカッション パネリスト：日本自然保護協会 若松氏 浦幌町立博物館 持田氏 環境エネルギー政策研究所 古屋氏	
参加者でおしゃべりタイム	

2026 3/30 月 **時間** 18:30～20:30 **会場** 浦幌町中央公民館 2階第3研修室

【お問い合わせ】浦幌町まちづくり政策課ゼロカーボン・DX推進係 Tel: 015-576-2112
主催：浦幌町 共催：浦幌町立博物館 協力：環境エネルギー政策研究所（ISEP）

ご参加いただいた方に
イベント限定
エコバック
プレゼント!

どんなことが問題となっているのか学び、私たちにとって大切な場所を考える

03 どのように作ったのか

エネルギーアクションを通じた町民との共創



おしえてください！

あなたにとって大切な場所

たとえば、こんな場所ありませんか？

- 子どものころ遊んだ思い出の場所
- 家族で通ったお気に入りの風景
- まちのシンボルと思える場所

下記URLまたはQRコードから登録をお待ちしております！

※入力方法は裏面に記載

<https://urahoro-mapping.netlify.app>

11月末まで募集中！

この調査は、今年度、浦幌町が環境省に採択された「再生可能エネルギーゾーニング事業」の一環として、住民参加型の調査として実施しています。

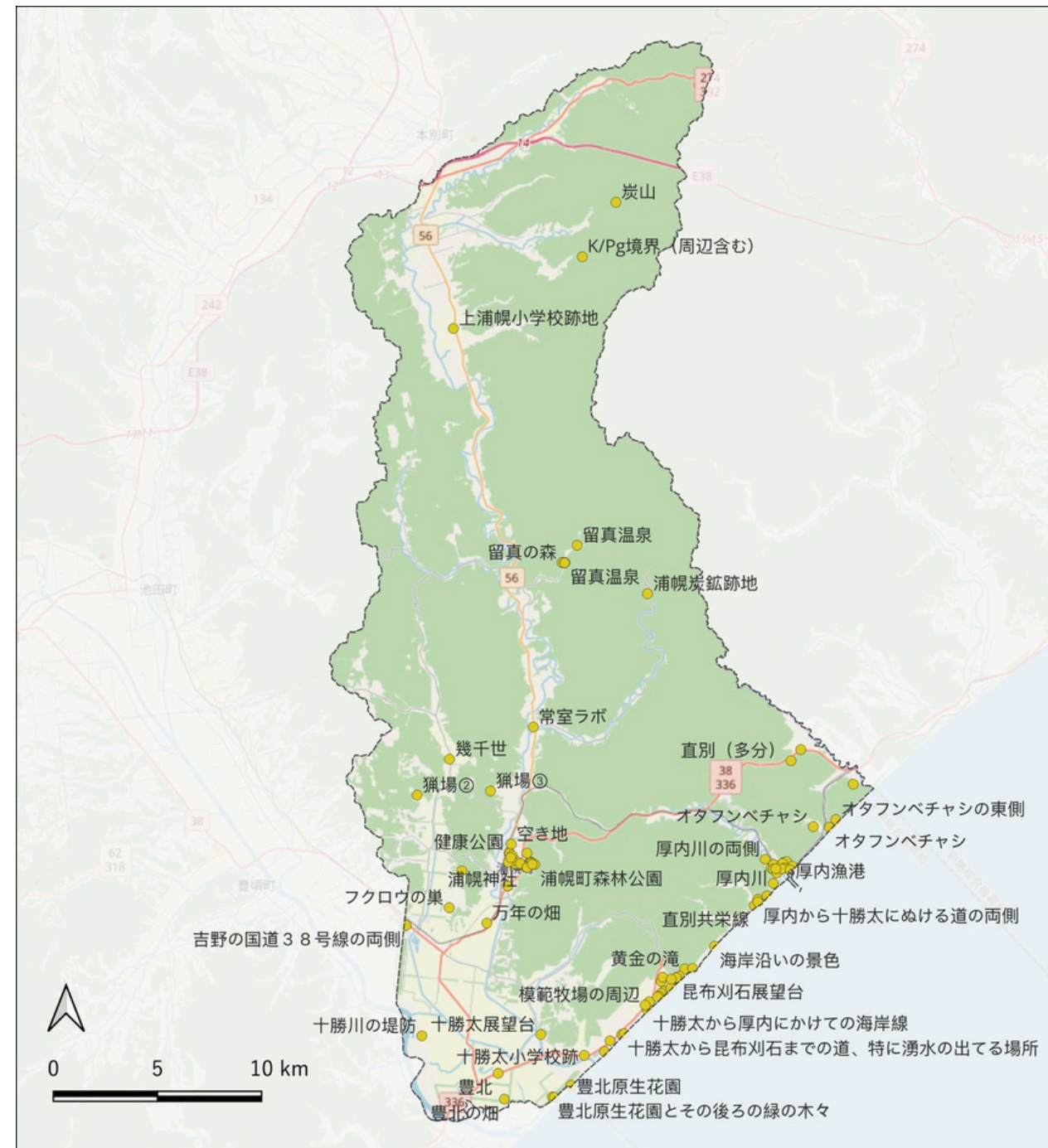
再生可能エネルギーの促進や規制にあたっては、住民の参加のもと、さまざまな情報を可視化し、立地を避けるべきエリアや、積極的に導入を進めるエリアなどをあらかじめ整理することで、問題の発生を未然に防ぐことができます。

ご入力いただいた情報は集計のうえ、参考マップとして公表する予定です。

また、ゾーニング事業の報告書等で個別の場所の情報や写真を掲載する可能性がありますので、あらかじめご了承ください。（※「公表NG」として入力された場所は除外します。）

【お問い合わせ先】 ☎ 015-576-2112
浦幌町まちづくり政策課
ゼロカーボン・DX推進係

 **調査：浦幌町立博物館**
Historical Museum of Urahoro



町民が大切にしている場所や価値観を把握し、サブマップとして反映させた

目次

- 1 これまでの取り組みの流れ
- 2 浦幌町がゾーニングに取り組んだ背景
- 3 どのように作ったか？
- 4 ゾーニングマップについて
- 5 公開後の運用について
- 6 保全エリアの考え方
- 7 現状のメリットや課題

04 ゾーニングマップの概要

太陽光発電（建物・土地）、風力発電について、ゾーニングマップを作成した。

何を基準に導入ポテンシャルを残すか？

→町で使う再エネを考えているため、町の需要量を基準とした

太陽光発電（建物）

町の年間電力需要の138%を確保

太陽光発電（土地）

町の年間電力需要の64%を確保

風力発電

町の年間電力需要の9.9%を確保

自然環境を保全しながらも、

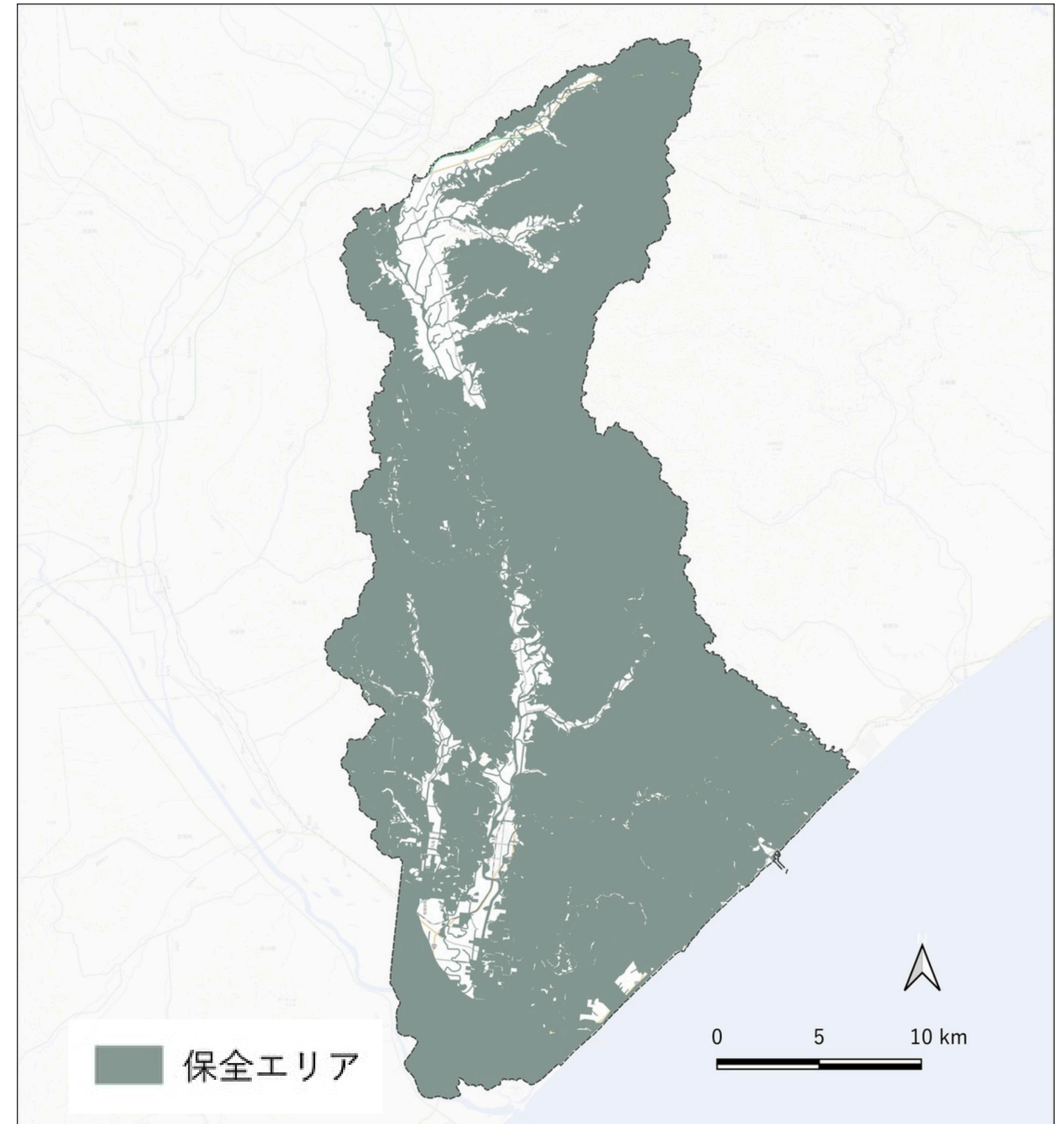
町の年間電力需要に対して十分な再エネ導入ポテンシャルを確保した

04 建物の太陽光ゾーニングマップについて

- 建物の屋根の導入は進めやすく
- 保全エリアを除く白地は特段の制約なし
- 町の年間電力需要の138%のポテンシャル

保全レイヤ (19)

保安林
鳥獣保護区
埋蔵文化財包蔵地
町指定文化財
廃棄物が地下にある土地に係る指定区域
絶滅危惧種
現存植生図2024 (選択保全)
KBA (生物多様性重要地域)
IBA (重要野鳥生息地)
巨樹・巨木
河川から**30m**の範囲
砂防指定地・砂防ダム
土砂災害警戒区域
土砂災害特別警戒区域 (急傾斜地、土石流、地滑り防止区域)
急傾斜地崩壊危険区域
地域森林計画対象民有林
海岸保全区域
漁港区域
最大傾斜角度 **30°C**以上



04 土地型の太陽光ゾーニングマップについて

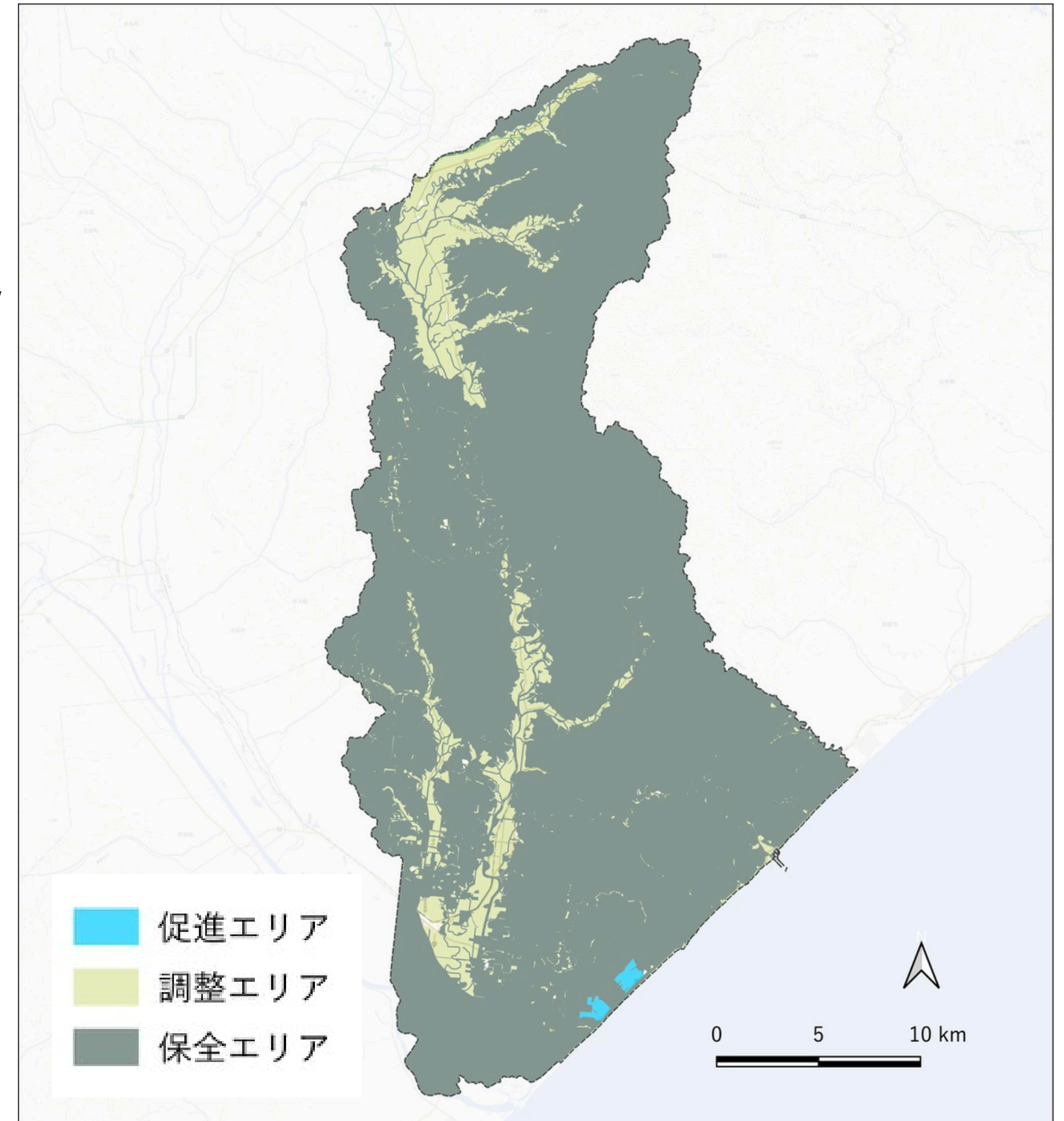
- 自然環境や文化の丁寧な保全をベース
- 地域課題の解決につながるものを条件付き促進
(垂直型や営農型などを想定、
一般的な野立てソーラーを促進するものではない。)

保全レイヤ (19)

保安林
鳥獣保護区
埋蔵文化財包蔵地
町指定文化財
廃棄物が地下にある土地に係る指定区域
絶滅危惧種
現存植生図**2024** (選択保全)
KBA (生物多様性重要地域)
IBA (重要野鳥生息地)
巨樹・巨木
河川から**30m**の範囲
砂防指定地・砂防ダム
土砂災害警戒区域
土砂災害特別警戒区域 (急傾斜地、土石流、地滑り防止区域)
急傾斜地崩壊危険区域
地域森林計画対象民有林
海岸保全区域
漁港区域
最大傾斜角度 **30°C**以上

調整レイヤ (9)

現存植生図**2024** (選択調整)
洪水浸水予測図 想定最大規模
洪水浸水予測図 計画規模
津波浸水想定区域 (**3m**以上)
農用地区域
都市公園
公共下水道供給開始区域
鉄道から**30m**の範囲
騒音・振動規制区域



04 風力発電ゾーニングマップについて

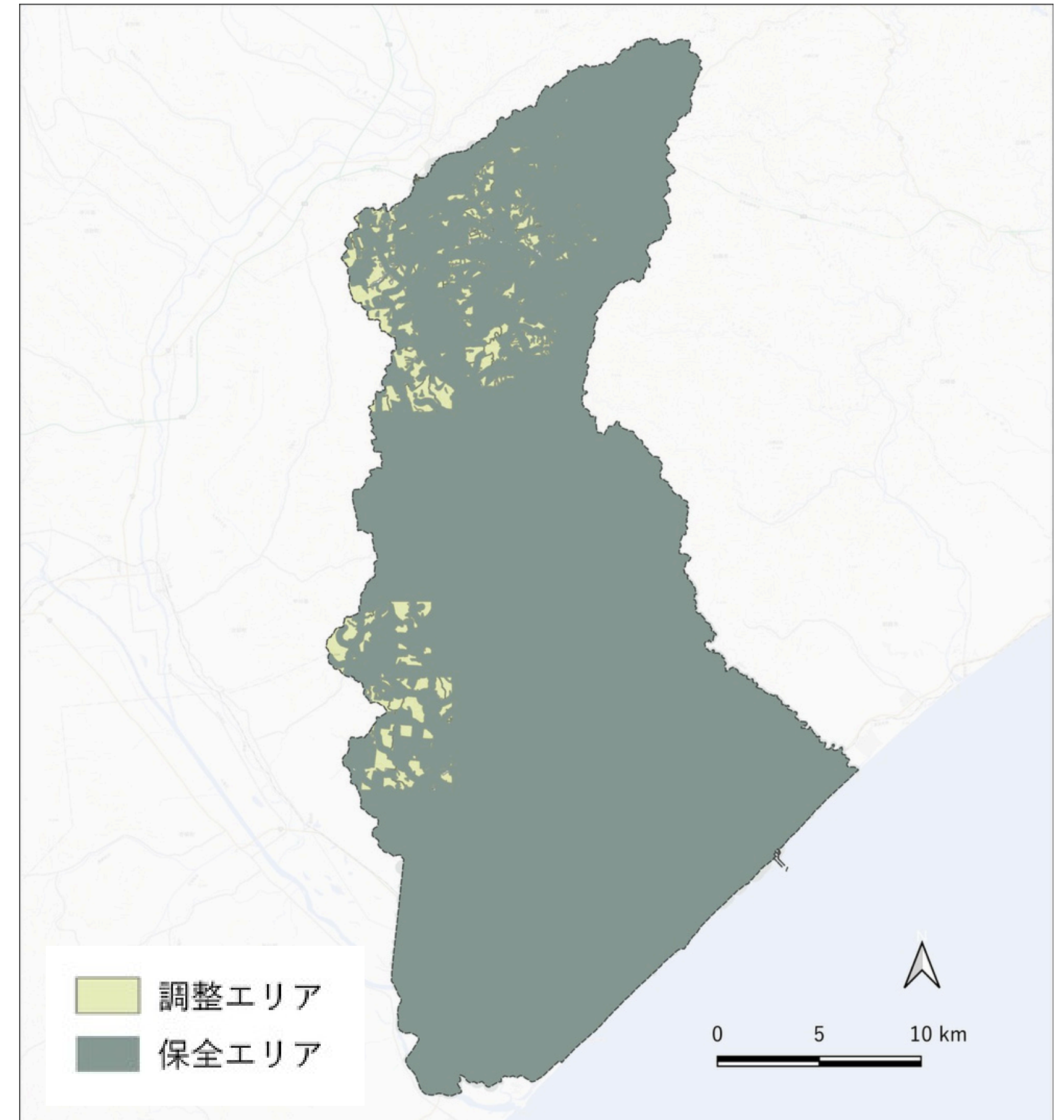
- 鳥類などへの影響が懸念
- 自然環境や景観への配慮が非常に重要
- 促進はせず、十分な調査と調整が必要

保全レイヤ（20）

保安林
鳥獣保護区
埋蔵文化財包蔵地
町指定文化財
廃棄物が地下にある土地に係る指定区域
絶滅危惧種
現存植生図2024（選択保全）
KBA（生物多様性重要地域）
IIBA（重要野鳥生息地）
巨樹・巨木
河川から200mの範囲
風力発電における鳥類センシティブティマップ（注意喚起レベルA3、B）
風力発電における鳥類センシティブティマップ（飛来地ランク 1）
砂防指定地・砂防ダム
土砂災害警戒区域
土砂災害特別警戒区域（急傾斜地、土石流、地滑り防止区域）
急傾斜地崩壊危険区域
海岸保全区域
漁港区域
最大傾斜角度 20℃以上

調整レイヤ（6）

現存植生図2024（選択調整）
洪水浸水予測図 想定最大規模
洪水浸水予測図 計画規模
津波浸水想定区域（3m以上）
農用地区域
地域森林計画対象民有林



目次

- 1 これまでの取り組みの流れ
- 2 浦幌町がゾーニングに取り組んだ背景
- 3 どのように作ったか？
- 4 ゾーニングマップについて
- 5 公開後の運用について
- 6 保全エリアの考え方
- 7 現状のメリットや課題

05 公開後の運用について

ホーム > 町政情報 > まちづくり

浦幌町再エネ促進区域等ゾーニングマップ / 町内に
発電所等を設置予定の事業者様へ

更新日：2026年06月01日

シェア シェア

浦幌町再エネ促進区域等ゾーニングマップ

浦幌町では、2050年二酸化炭素排出量実質ゼロの実現に向け、地域の自然環境、景観、産業、暮らしとの調和を図りながら、地域と共生した再生可能エネルギーの導入を進めることとしています。

再生可能エネルギーは、脱炭素社会の実現に向けて重要なエネルギーである一方、設置場所や事業内容によっては、自然環境、景観、土地利用、地域生活等への影響が生じる可能性があります。

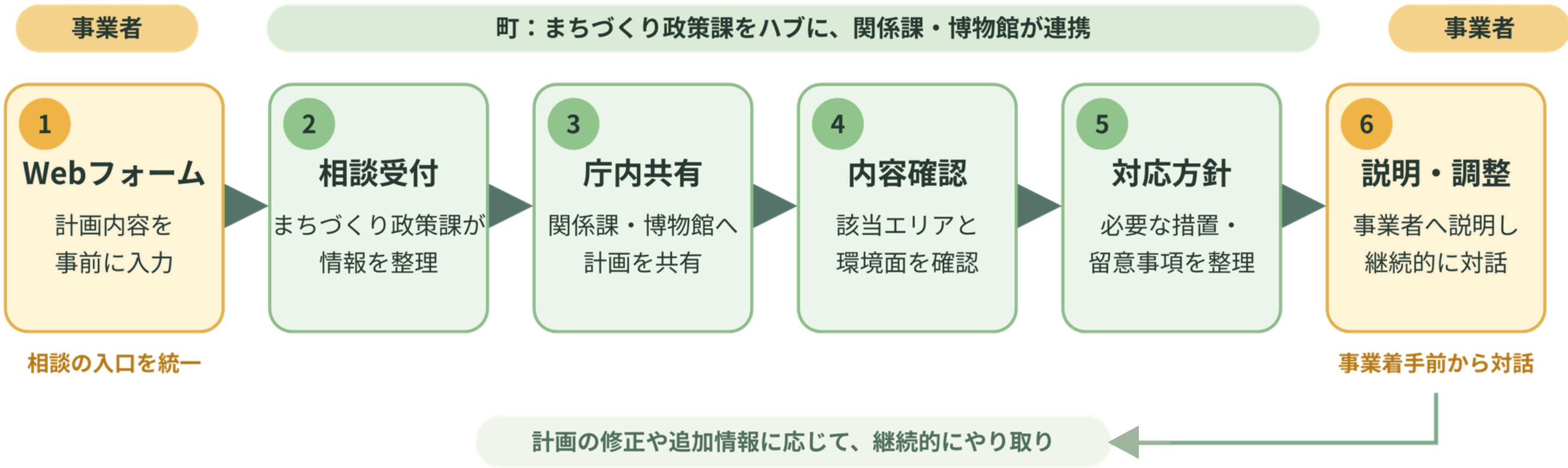
そのため町では、再生可能エネルギーの導入にあたり、保全すべき場所、事前に調整が必要な場所、導入の可能性を検討できる場所などを整理した「浦幌町再エネ促進区域等ゾーニングマップ」を作成しました。

ゾーニング区分について

保全エリア	再エネ導入を抑制するエリア
調整エリア	各種制約を踏まえて再エネ導入を検討することが可能なエリア
促進エリア	特定の条件のもとで積極的に再エネ導入を検討することが可能なエリア

ゾーニングマップ

- 太陽光発電(建物)ゾーニングマップ [PDF | 443.7KB]
- 太陽光発電(土地)ゾーニングマップ [PDF | 444.5KB]
- 風力発電ゾーニングマップ [PDF | 425.2KB]



問い合わせをフォームで一元化し、庁内の共有ルートを整備した。

目次

- 1 これまでの取り組みの流れ
- 2 浦幌町がゾーニングに取り組んだ背景
- 3 どのように作ったか？
- 4 ゾーニングマップについて
- 5 公開後の運用について
- 6 保全エリアの考え方
- 7 現状のメリットや課題

浦幌の生物多様性情報の収集状況調査

ほとんど情報が無いことが明らかになった

【情報1】博物館の調査・観察結果……あることは有る

【情報2】大学・研究団体の結果……少しだが有る

【情報3】環境アセスメント……事実上無い

【情報4】有害鳥獣情報……町としては無い

【情報5】動物死骸情報……町としては無い

【情報6】動物以外の情報……そもそも集めていない

情報2関連機関……浦幌ヒグマ調査会、帯広畜産大学、帯広百年杵館、ひがし大雪自然館、道東海岸線総合調査、日本野鳥の会十勝支部、浦幌野鳥倶楽部、ストランディングネットワーク北海道ほか

ゾーニング

保全エリア
調整エリア
促進エリア

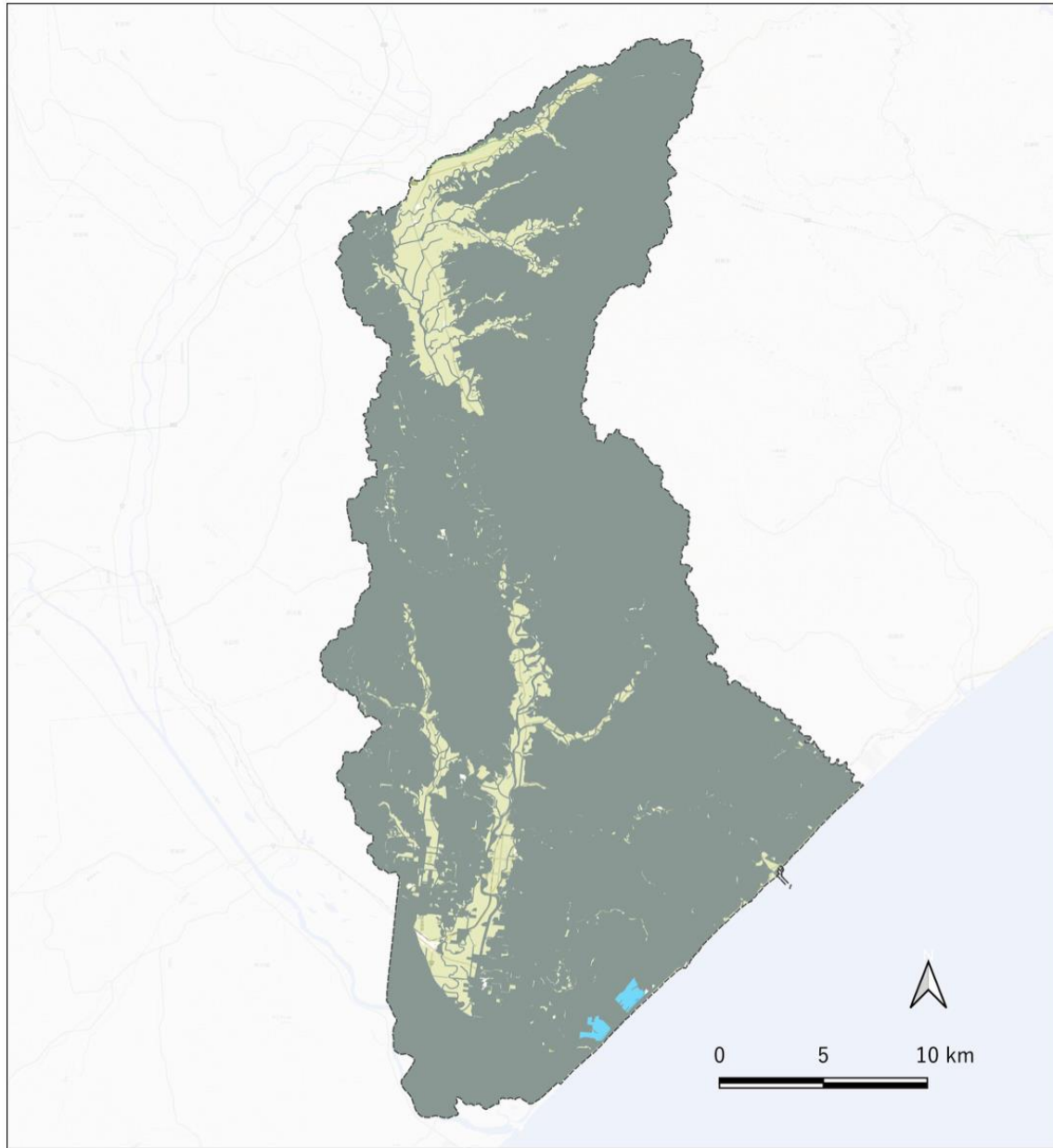
全町を上記に3区分する

情報が無いのであれば、無闇に開発せず、保全区域としてゼロからデータを集める。

→浦幌町の全域を基本的には保全エリアとして設定。

農村部を中心に調整エリアとする。

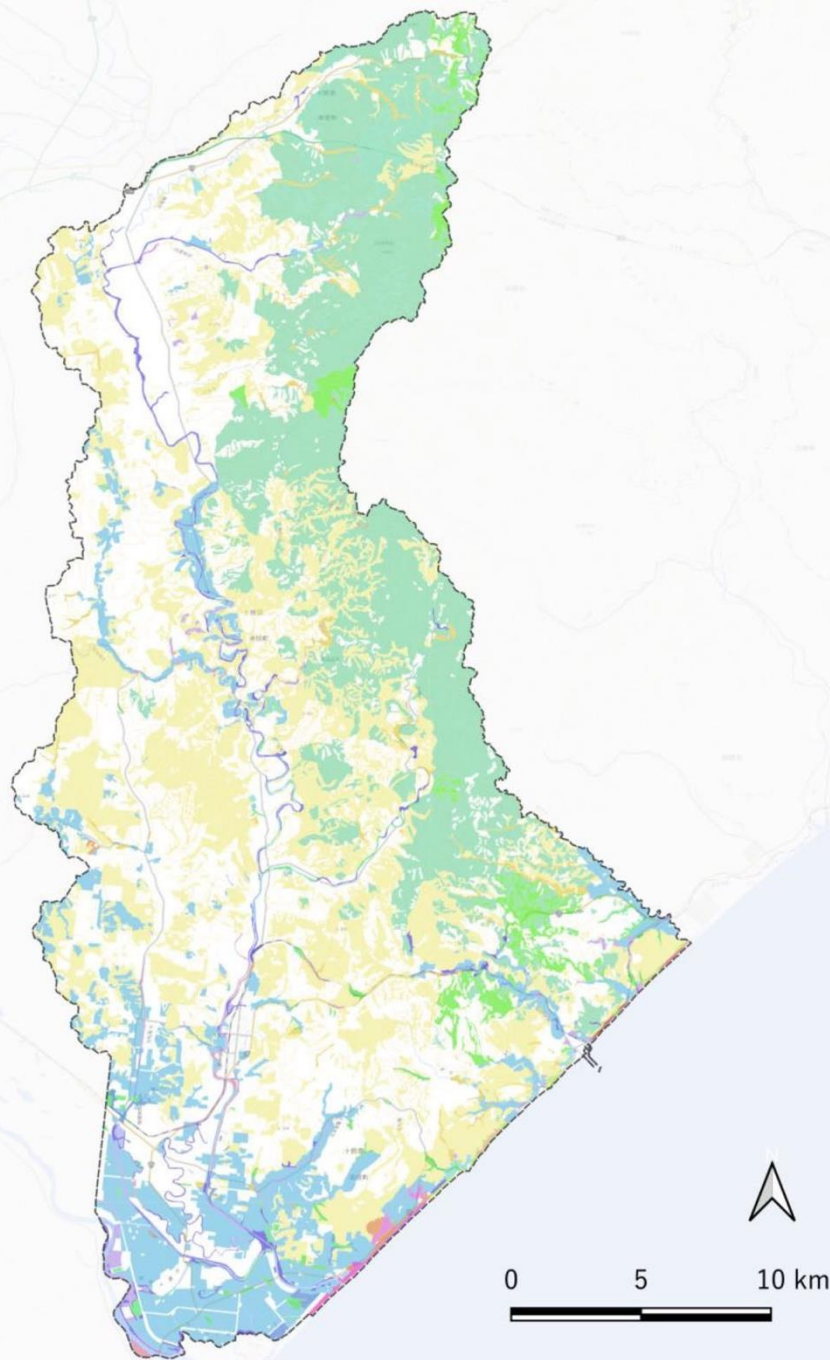
植生自然度では自然度が低く判定される下浦幌地区の農村部は、渡り鳥の飛来地として重要なため、自然度での区分ではなく、植物社会学的な植生区分によって、生物多様性保全上、重要な植生を保全する。



浦幌町 太陽光発電（土地）ゾーニングマップ

- 促進エリア
- 調整エリア
- 保全エリア

植生区分



現存植生図2024 凡例名

エゾイタヤミズナラ群落	シラカンバーミズナラ群落
オオヨモギ群落	トドマツミズナラ群落
カシワ群落 (IV)	トドマツ群落 (誘導林)
カシワ群落 (V)	ナガボノシロワレモコウーエゾミヤコザサ群落
ササーシラカンバ群落	ヌマガヤオーダー
ササ群落 (V)	ハマオトコヨモギーコハマギク群集
ハマハタザオーエゾノスカシユリ群落	ハマニンニクーコウボウムギ群集
ハルニレ群落	ミヤマハンノキ群落 (北海道)
ハンノキーヤチダモ群集	ヤナギ高木群落 (IV)
ハンノキ群落 (IV)	ヤナギ低木群落 (IV)
ヒルムシロクラス	ヨシクラス
ミヤコザサ群落	牧草地

浦幌町の現存植生図による植生区分。
上記の群落を保全区域として設定。



ヒルムシロクラス
ヨシクラス

河跡湖を中心とする元来の十勝川河口湿地の湖沼。

周辺のヨシ原も含めて貴重な自然域だが、原野開発の対象となりやすい。



エゾイタヤーミズナラ群落 (サワシバーミズナラ群集)

町内のエゾイタヤーミズナラ群落は、伐採したあとに再生した二次林が多い。

林床に多様な草本植生と昆虫相を抱える。

キツツキ類をはじめ、小鳥類の生息環境としても重要な植生。

シラカンバーミズナラ群落

再生二次林は林床が明るく草原性植物や昆虫類の生息地、鳥類の生息環境として重要。





農地植生保全の意義

ハクガンなど渡り鳥の飛来地として、十勝川下流域の農地は重要。

牧草地も含めて、人口植生だが生物多様性保全上は重要な立地といえる。

植生自然度で区分すると保全対象とならない。

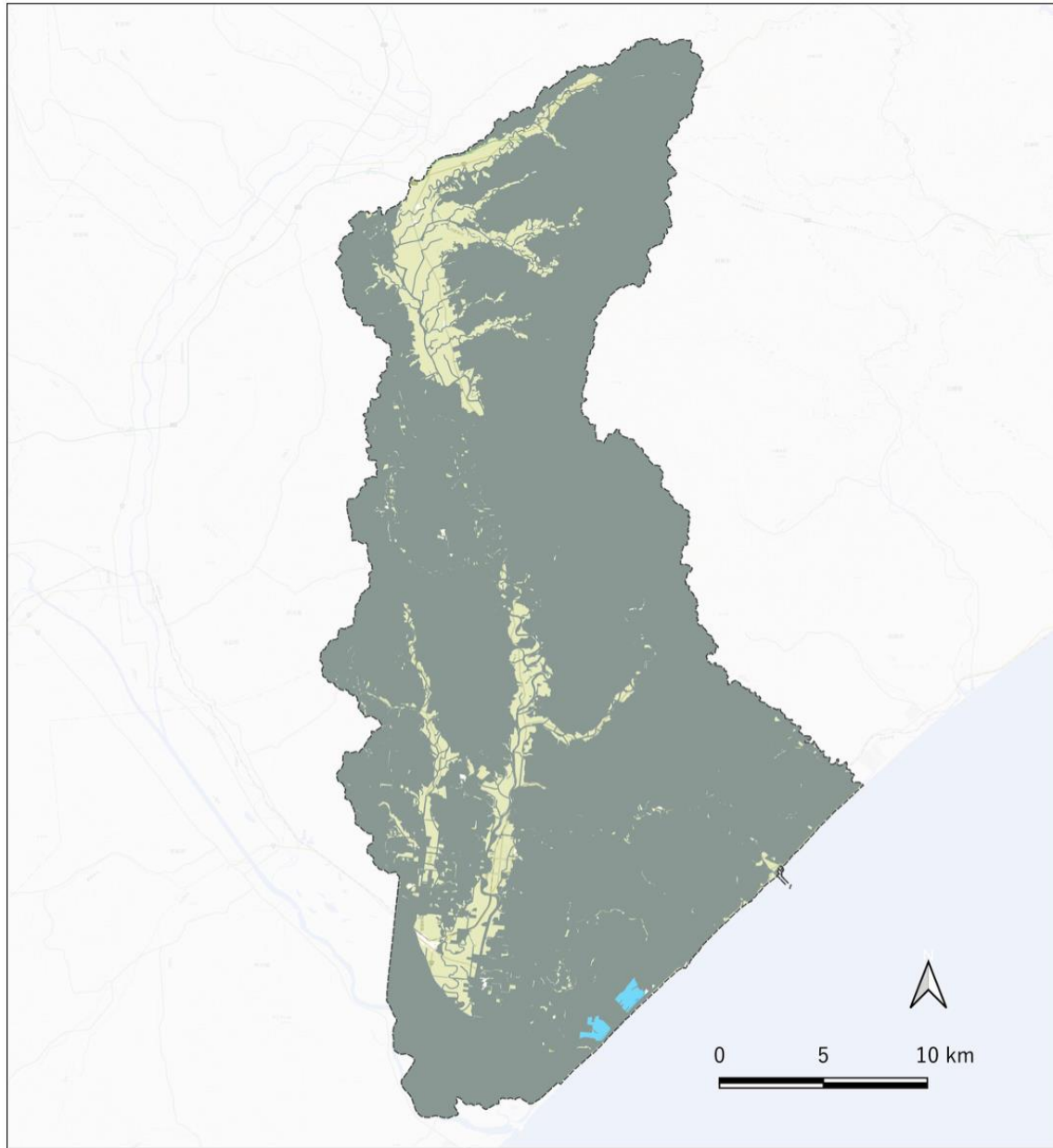
ゾーニング

保全エリア
調整エリア
促進エリア

全町を上記に3区分する

生物多様性調査が続き、データが集まれば、本当に保全しなければならない区域、再エネを導入しても問題が無さそうな地域がよりはっきりしてくる。

そうした見直しを定期的におこない、ソーニングマップを更新しながら、生物多様性施策とエネルギー施策の両立をはかっていくことを目指す。



浦幌町 太陽光発電（土地）ゾーニングマップ

促進エリア
調整エリア
保全エリア

目次

- 1 これまでの取り組みの流れ
- 2 浦幌町がゾーニングに取り組んだ背景
- 3 どのように作ったか？
- 4 ゾーニングマップについて
- 5 公開後の運用について
- 6 保全エリアの考え方
- 7 現状のメリットや課題

07 現状のメリットや課題

実際に良かったこと

- ・ 町としての再エネ導入に対する考え方を示せた
- ・ ゾーニングマップがあることで、事業者から事前相談が入る
- ・ 事業計画を早い段階で把握できる
- ・ 関係課への情報共有と連携がしやすくなった
- ・ 学芸員の見解を事業者へ伝え、環境保全措置や対話につなげやすくなった

ゾーニングマップが、事業者と町との対話を始める共通言語になった

07 現状のメリットや課題

現在の課題と今後について

- ・ 条例ではないため、事業者への対応は協力をお願いになる
- ・ 現状は対応してもらえることが多いが、強制力はない
- ・ GISの更新方法はレクチャーを受けているものの、実際の更新はまだ未経験
- ・ 保全のためにも、促進エリアでの事業化も進める必要がある

「守る場所」を示すだけでなく、「進める事業」も実現することで、
保全の考え方にも説得力が生まれる

ご清聴ありがとうございました。